

バトルサウナー城崎

作・阿部慎一郎

・登場人物

城崎 「ととのい」を追い求めしサウナー
西川 「練馬健康センター」の3代目オーナー。女熱波師。
有馬 西川のこと好きなサウナー
ととのい組長 ととのい組の「組長」
スパフキン 練馬健康センターのサウナの神。
トントウ サウナの精霊

・場所

練馬駅北口から徒歩10分圏内にある温浴施設「練馬健康センター」のサウナ。
創業50年の歴史がある。

第1話 「覚醒」

西川、登場。

サウナストーブの前に立つ。

西川

只今より20時のロウリュを始めさせて頂きます。担当は練馬健康センターの西川が務めます。

西川、一礼。

西川

途中退出はご自由にどうぞ。ただし安全上、再入場はご遠慮下さい。

西川、柄杓でバケツのアロマ水をすくう。

西川

それでは、さっそく熱い蒸気を出させて頂きます。

西川、柄杓のアロマ水をサウナストーブにかける。

○「じゅわぁ」つとサウナストーンに水が掛かり空間に蒸気が広がる音。

●ゆっくりと暗転。

明転すると、裸にサウナパンツを履いた城崎、組長、有馬、トントウ（モブ）の4人がサウナにいる。

西川

このサウナストーンにアロマ水をかけ、発生する蒸気のことをロウリュと呼びます。

西川、柄杓でサウナストーブにアロマ水を掛ける。

○じゅわぁ

西川

ロウリュをタオルで扇ぎ、皆様の体感温度を高める事で、病気や怪我、疲労回復に効果があります……。それでは、室内全体に熱い蒸気をお送りしましょう。

西川、タオルをぶん回してアフグースを始める。

西川の風を受ける4人のサウナー。

西川 次に、1人ずつゆっくり蒸気を当てさせて頂きます。

4人のサウナー、それぞれ熱波を受けたポーズになる。
城崎、有馬、組長、西川の熱波を浴びる。

西川 サウナ発祥の地フィンランドではロウリュに精霊の力が宿ると信じられています。皆様、サウナの精霊に祈りと感謝を捧げましょう……1、2、サウナー。

全員 1、2、サウナー、1、2、サウナー、1、2、サウナー……。

西川 願わくば、皆様に「ととのい」の導きがあらんことを……。担当はオーナーの西川が務めました。

4人拍手。

西川、有馬、トントウ、退場。

城崎と組長だけサウナに残る。

組長 あのう、

城崎 ……はい。

組長 大丈夫ですか？

城崎 え、

組長 なんか具合悪そうに見えたから。

城崎 いや、別に大丈夫すけど、

組長 ああ……、すみません。

城崎 ……あのう……、水かけてもいいですか？

組長 いいですよ。

城崎、柄杓でバケツの水をすくってサウナストーブにかける。

○じゅわあ

城崎 ふう〜、

組長 あ〜……サウナ好きなんですか？

城崎 ええ……、今日は定時で会社を上がったし、のんびりしようと思って。

組長 いいですね。

城崎 まあ、明日も仕事なんでね……、

組長 そうですか……。

2人 (同時に) 水かけていいですか？

組長 ああつ、
城崎 どうぞ、いいですよ。
組長 なんか、物足りないっすよね……。うらあああああ!!!

組長、バケツごとサウナストーンに水を掛けた。
○じゅわあ〜〜!

城崎 あっつう!
組長 気持ちいい〜!!
城崎 あもう!
組長 いいですよ。
城崎 そうじゃなくて……。水の掛け過ぎですよ。
組長 そうですか?
城崎 ええ、
組長 無理してるんじゃないですか?
城崎 ……。
組長 ホント無理だけはない方がいいです。命に関わるから、
城崎 ……人のことよりもまず自分の心配したらどうです? 汗でタオルがビチャビ
組長 チャですよ。
組長 ……いや……。普通だけどな、コレ。
城崎 あなたこそ無理しない方がいいです。(手で外を指す。)
組長 そうですね……。じゃあ、あなたが出たら、俺も出ますよ。
城崎 そうして下さい。

城崎、組長、お互いのおでこをぶつけ合わせた後、元いた場所に戻る。

組長 水掛けて……。
城崎 (置いてあるバケツを裏返す。)

●城崎にサスが当たる。
以降、城崎の心の声が台詞になる。

城崎(声) 落ち着け、落ち着くんた。会社で寝た心を穏やかに保ち、明日へと気持ちを切り替える。そのためのサウナだろ。無心だ。無心になれ。

突然、城崎の頭の中にサウナの精霊トントウの声が届く。

トントウ (声) 助けてえ、助けてえ、

城崎 ……。

トントウ (声) 苦しいよお。

城崎 ダメだ。我慢しろ。

トントウ (声) でも、

城崎 全然熱く無い！ 今日こそ己の我慢の限界に挑戦するんだろ。

顎から小さな胴体が生えたトントウ、登場。

トントウ もう出ちやいそう。

城崎 出ちやいそう……？まだ出ちやダメだ！ あと、8分サウナにいる……。それ

れで自己ベスト更新だ。

トントウ ねえ、無視しないで、助けてよお。

城崎 甘えるな！ 無意識の俺！ いや、俺の心と言うべきか！

トントウ そうじゃなくて、

●照明、元に戻る。

組長、城崎に背中を向けると「ととのい組長」と書かれた刺青が彫つてある。

トントウ あの人ヤバいんだよお。

城崎 刺青？

城崎、立ち上がり、外に去ろうとする。

トントウ あ、いかないで！

城崎 (立ち止まり) そうだ、諦めちやいけない！ 今、こんな気持ちで外に出たら、明日の仕事に支障が出る！ それに……偏見はいけないと思うの！

組長、自分の汗でビチョビチョになったタオルを絞りサウナストーンに水を掛ける。

○「じゅわあ」と空間に蒸気が広がる音。

●サウナストーンからもくもくと煙が立ち始める。

トントウ ぎやああああ！！！！

トントウ、退場。

城崎 おおおい!!!

組長 なんだよ?

城崎 てめえの脂汗をぶっかけてんじゃねえ! 汗ロウリュは法律で禁止されてんだよ!

組長 すまんな、もう外に出るかと思つて。

城崎 出ねえよ! お前にサウナを愛する心は無いのか。

組長 (人差し指を唇の前に立てて) しっ! 静かに。

城崎 なんだよ!

組長 ……頃合か。仕方がない。

突如、サウナストーンが輝き始める。

城崎 なんだ!? サウナストーンが光り輝いている!!

トントウ、登場。

トントウ 助けて〜!

組長 (体の汗をタオルで拭きながら) ようやく出てきたぞ! サウナの精霊だ! もっとだ。もっとロウリュだ。(タオルを絞る)

トントウ ぎゃ〜! 出ちゃう〜!

城崎 やめろ変態! (組長に平手打ち)

組長 邪魔をするな! 後で後悔することになるぞ。

城崎 じゃあいいよ、もうそれで! (その場に座る)

組長 座るな! 出て行け!

城崎 あと5分で自己ベスト更新なんだよ!

組長 自己ベスト?

城崎 (遠くを指し) あの、12分計が5週したとき、俺は60分間サウナに籠ったことになる。それが俺の自己ベスト更新だ!

組長 随分くだらないことにこだわるんだな。

城崎 なんだと!

組長 残念だが、記録はここで打ち止め。この精霊の力を利用して、お前をサウナの外に追い出してやる。

城崎 やれるもんならやってみろよ!

組長 こいつはなあ…、闇市で高く取引されてんだよ。

組長、トントウの下半身を覆うバスタオルを外し、金玉をぶん取る。

組長 (匂いを嗅いで) ああ……ひゃっはー！

猛烈に筋トレを始める。

城崎 サウナで筋トレだと！

組長 運動作用により、血管が超拡張し皮膚表面の温度が上昇。身体から吹き出る汗をあっつあつの水蒸気に変える！

城崎 何バカなことを言ってるんだよ。(組長の肌を触って) あっつあつ……！ ええ！？

組長 これが精霊の力だ！

城崎 なんだ！？ 温度計が凄いい勢いで上昇してる！

○パリン！

城崎 温度計が割れただと！？

組長 俺の体内から吹き出る蒸気は、蒸され慣れたシウマイすら溶かす！

○パリン！

城崎 (遠くを見て) 湿度計も割れただと！？ あっつい！

組長 降参するなら、今のうちだぜ！

城崎 いいや、あと3分30秒……まだまだ籠もれる！

組長 なぜそこまで自己ベスト更新にこだわる？

城崎 自己ベストを更新すれば、俺は初めてサウナでとこの事が出来るかもしれない！

組長 そうか、そこまで「とこのい」たいなら、あの世でとこのわせてやる。

組長、平台に敷いてあるサウナマットをぶんとやる。

○ぶん！

○パリン！

城崎 (遠くを見て) あっ12分計が割れた……。 もう時間が分からない。(膝

をつく)

組長 お前をシウマイにしてやる。「崎陽拳！」

城崎 うわああああ！

城崎、その場に倒れる。

組長 自己ベスト更新ならずだな！ 残念！！

●暗転。

スパフキンの声が聞こえる。

スパフキン サウナーよ、目覚めよ。

●明転。

スパフキン、登場。

城崎 あなたは……？

スパフキン サウナーよ、サウナは好きか？

城崎 急になんだよ。

スパフキン サウナは好きか、と聞いたんだ。

城崎 ……好きさ。好きに決まってるだろ。

スパフキン 本当か？お前が懸命に自己ベスト更新に挑む姿は、サウナストープから毎日見ていた。だが、お前はいつも満たされない表情で帰っていったな。

城崎 そんなことない。

スパフキン とどのつた事が無いんだろう？

城崎 ああそうさ、確かにサウナは気持ち良い。水風呂も気持ち良い。でも、俺は一度もとどのつた事が無いんだ！

スパフキン 当たり前だ。「とどのい」とはそんなに甘いものではない。

城崎 きっと我慢が足りないんだ！ 自分の限界を超えた先に、「とどのい」が待っているはずなんだ。

スパフキン 我慢の限界の果てにお前を待つものは……死だ。

城崎 そんな！ 死にたくない！

スパフキン というか、今まさにお前は死ぬ所だ。

城崎 えっ……、俺はどうすればいい。

スパフキン これよりお前にバトルサウナの奥義の一つ「手汗」を授ける。

スパフキン、城崎に精霊の力を送る。

●明かりが戻り、元の時間軸に戻る。

城崎 ……はあはあ……手汗？

組長 生きているだと！

城崎 生憎、気持ち良すぎて、うたた寝かましちまったぜ。

組長 小癪な！ 俺の汗で蒸し殺してやる！！

城崎、台に座る。

組長 崎陽拳！

組長、持つてるタオルをぶんってやる。

城崎、西川のアウフグースの時のような風を受けるポーズを取り、組長の熱波を受ける。

組長 なにいいい、

城崎 ふ〜、心地良い風だぜ！

組長 さっきはすぐに音を上げたのに！？ どうして！？

城崎 次はこっちから行くぜ！

○じゅぽぼ〜！

城崎の掌から噴水のように手汗が吹き出している。

組長 何だ！？ 手から打たせ湯みたいな汗が！

城崎 この汗でお前の体を火照らせてやる！

組長 いいだろう。俺をぐっちょんぐっちょんにしてみる！

城崎 いくぞ……、うおおおおおお！

城崎、手の形をかめはめ波のように構える。

城崎 これが、サウナを正しく愛する者の怒りだああああ！

城崎の手汗が打たせ湯みたいになり、組長に飛んでいく。

組長 ひゃっはー！

組長、サウナマットで城崎の打たせ湯を受け止め、2人の力が拮抗する。
拮抗の末、打たせ湯が組長の顔に命中。

組長 あ、あ、あ……、あついく〜！

サウナのドアを突き破り外へ吹き飛ばされながら組長、退場。

城崎 はあはあ……、汗を使い過ぎたぜ。

トントウ ありがとう。君は才能あるバトルサウナーなんだね。

城崎 バトルサウナー？

トントウ 僕も君の力になってあげるよー。

トントウ、自分の金玉を城崎に食わせる。

城崎 きったね！ 何するんだ、急に

トントウ 精霊の力でバトルサウナーの奥義を強化したんだ。

城崎 えっどうということ？

トントウ 手汗の量が更に増えたよ。

城崎 もっと他に無いの？

トントウ 僕に言われても困る。じゃあ、やめる？ととのえなくなるけど、

城崎 それはダメだ。

トントウ なら、やるしかないよね。

城崎 どうということだ！ 教えろよ！

トントウがサウナストーブを動かすと、地下への階段が登場。

地下からバケツを持った西川が現れる。

西川 ……来なさい。この先に、あなたが追い求める「ととのい」がありますよ。

城崎 どうということだ！ 教えろよ！

城崎、西川、トントウ、地下へ退場。

第2話 父との「ととのい」

スパ（声） バトルサウナー、それは、灼熱のサウナ地獄で汗を垂れ流し、精霊の力で汗をぶつけ合い「ととのい」を目指す命知らずの男たちである。この物語は、主人公の城崎が真の「ととのい」に出会うまでの物語である！

地下2階。

●照明明るくなる。

西川、城崎、登場。

城崎 サウナの地下にまたサウナ！？ ここは、一体。

西川 練馬健康センター「地下の間」よ。

城崎 ここに俺が追い求める「ととのい」があるのか？

西川 いいえ、まだよ。

城崎 どういうことだ？いつ俺は「ととのい」ことが出来るんだ！

西川 教えて差し上げましょうか？

城崎 ああ、もったいぶらずに言ってくれ！

西川 「ととのい」とは……サウナ、水風呂、外気浴を1セットとし……、

城崎 そんなことは分かってる！ もっと激しいやり方は無えのか！

西川 激しいのが好き？

トントウ、登場。

西川 ……なら、バトルサウナーが求める「ととのい」は熱く激しいバトルの果てにあるわ。

トントウ、サウナストープを動かすと地下への階段が現れる。

トントウは地下へ退場。

城崎 また地下への階段！？ 何だか、禍々しいオーラが漂ってるぜ！

西川 練馬健康センターの地下は「バトルダンジョン」になっているの。そしてその最下層「ラストサウナ」に眠る秘宝こそ、あなたが追い求める真の「ととのい」よ。

城崎 なるほど、なら、行くぜ！

西川 待ちなさい。私の知る限り、「ラストサウナ」にたどり着いた者は、誰一人

として居ないわ。

城崎 何故だ？ みんな途中で引き返しちまうのか。

西川 ええ、「バトルダンジョン」の各フロアは、精霊の力の使い手「ボスサウナー」たちが守っているのよ。

城崎 ヤベエ奴らなのか？

西川 ええ、まず最初の対戦相手が「本能寺の変」の炎でととのった織田信長、次に非暴力・不服従を説いたマハトマ・ガンディー、そしてAV男優、しみけん。

城崎 どれもサウナ史に名を残す偉人たちじゃないか！

西川 分かったでしょ？「ととのう」ことの恐ろしさが。

城崎 正直、俺はさっきのバトルを生き残るだけで精一杯だった。そんな俺がボスサウナー達に勝てるのだろうか。

西川 一つだけ方法があるわ。私とチームを組まない？

城崎 チーム？

西川 一緒に地下へ行きましょう。私がこのタオルでサポートしてあげる。

城崎 いいのか？俺なんかのために、

西川 もちろんよ、私はあなたの手汗に期待してるの。

城崎 そうか……西川さん、ありがとう

西川 これで決まりね。

城崎 よし！俺は燃え上がるバトルサウナーの道へ突き進むぜ！

西川 (笑)

城崎 なんだよ？

西川 やっぱ親子ね。お父さんと言うことが同じ。

城崎 知ってるのか……？俺の父のことを！

西川 ええ、

城崎 20年前にこのサウナで行方不明になった父の事を！

有馬、登場。

有馬 立派になったな。

城崎 父さん！？

有馬 いや、違う、お父さんじゃない。

城崎 あ、すみません。父の顔、覚えて無いです。

有馬 君は、城崎さんの息子だろ？

城崎 何故分かるんですか？

有馬 西川さんのロウリュの時、風を受けるポーズがお父さんと一緒だった。

城崎 はっ
有馬 君もお父さんと同じように真の「ととのい」に惹かれてここに来たんだね。
城崎 違う、俺はそんなんじゃない。
有馬 素直じゃないな。
城崎 父はどこに？
有馬 (地下を指して) 恐らく君のお父さんは、今もなお地下でボスサウナーたちに挑み続けている。
城崎 まさか、父もバトルサウナーだったのか？
西川 ええ、昔3人でチームを組んでいたの。
有馬 なあ、またバトルダンジョンに挑むんだろ？俺もチームに加えてくれないか？ 再結成と行こうぜ！
西川 嫌よ。
有馬 どうしてだ！
西川 才能の無い足手まといはチームに必要無い！ あと、生理的にお前が嫌い！
有馬 そんな……。 (城崎に) 君だってお父さんのこと気になるだろ？
城崎 親父のことはどうでもいい！ あと、生理的にお前が嫌いだ！
有馬 ごめん。
城崎 だけど、俺は真の「ととのい」のためなら何でもやる！ 力を貸してくれ、おっさん！！
有馬 俺は有馬だ！ よろしく！

第3話 「神との戦い」

城崎 こうして、俺たちの冒険が始まった！

急に駆け出す3人。

地下の最深部へと向かっている模様。

有馬 まず、下のフロアで待ち受けていたのは、1000年の時を生きたアカスリ

ババア。

城崎 毛穴に潜む皮脂を取り除かれ、発汗しやすくしてもらった！

西川 そして次のフロアでは、武を天下に知らしめた三国時代の猛将・呂布の担当
整体師が待ち受けていた。

有馬 3日3晩寝ずに揉みほぐされた俺たちは猛烈な揉み返しに苦しんだ！

3人 ぐわああああ！

有馬 そして、赤兔馬に見送られながら、ダンジョンの更に奥へ！

城崎 歴史上の人物たちがボスサウナーとして、俺たちの前に立ちはだかった！

西川 「本能寺の変」の炎でととのった織田信長、

トントウ、登場。

トントウ 明智、ありがとう。

有馬 非暴力・不服従を説いたマハトマ・ガンディー、

トントウ ターメリック！

城崎 AV男優、しみけん、

トントウ コンドームは男のタキシードだ。

城崎 声のトーンが全部同じなんだよ！ ヘタクソ！（唾を吐く。）

トントウ、退場。

西川 私たちは奇跡の連携プレーを見せて、次々とボスサウナーを撃破した！

トントウと全て同じ顔のトントウたち、登場。

トントウズ 僕たちが力になってあげるよ。

城崎 ありがとう！ 信長、ガンディー、しみけん、今まで戦ったボスサウナーに

宿っていた精霊たち

トントウズ 使える奥義が増えたよ。

全員 やったー！

トントウたち退場。

有馬 月日は流れ2年後。

西川 私たちはついに地下999階に辿り着いた！

城崎 そこで待ち受けていたのは、

スパフキン、登場。

スパフキン おめでとう！ バトルサウナー諸君！

西川 サウナの神スパフキン！

城崎 あれがサウナの神！？

スパフキン 私が「バトルダンジョン」最後のボスサウナー。私を倒せば次の階が「ラストサウナ」だ。お前たちはそこで真の「ととのい」を得ることが出来るだろう。

城崎 俺たちは連戦連勝！ もうどんなボスサウナーだって恐くないさ！ いくぞ！

2人 おう！

城崎 バトルサウナー奥義「手汗」の呼吸・壺の型「スウェットスプラッシュ！」

城崎、有馬の手から汗が発射されない。

城崎 あ、あれ？

有馬 おかしい、さっき上の給水フロアでオロポを飲んだはずなのに、汗が出ない！

西川 寒い（しゃがむ）

有馬 大丈夫？

西川 身体が凍えるようだわ。

城崎、有馬も凍え出す。

スパフキン お前らの体温と精霊の力を少しばかり奪わせてもらった。

有馬 こんな低体温じゃ、汗がかけない。

西川、懐からオロポを取り出す。

西川 私、「はちみつ生姜湯」の素を持っているの。私の飲みかけのオロポにこれを混ぜて

西川、「オロポ」のペットボトルに「はちみつ生姜湯」の素を混ぜて城崎に渡す。

城崎 (シエイクしながら) ありがてえ！ 少しでも汗をかければ、
有馬 西川さんと間接キッスするのは俺だ！

有馬、城崎から「オロポ」のペットボトルを奪うが、床に落とす。
その際、中の液体がスパフキンに掛かる。

城崎 何してんだ！ 馬鹿！

スパフキン ぎゃああああ！！！！

有馬 効いてる？

西川 まさか、サウナの神の弱点は水？

城崎 精霊と一緒にだよ！

スパフキン フン！ 分かったところで、お前らの手汗はもう使えん。

有馬 くらえ！

有馬、スパフキンに股間を向ける

○綺麗なハープの音。

と共に股間から虹が出る。

スパフキン うわああああああ！！！！ 神の力が汚されるううう！！

城崎 そうか、聖水、身体が冷えた今なら、(股間に手をやる。)

西川 待ちなさい。

スパフキンの身体から薄い蒸気のようなものが漂っている。

西川はその蒸気を仰ぐ。

スパフキン うわあ！

西川 あれが神の力の源よ！ あれを散らすことが出来れば、

城崎 どうすればいい？

西川 タオルを持って、私に続きなさい。三三七拍子〜！

3人、平台に敷いてあるサウナマットを手に持ち、三三七拍子のリズムでスパフキンを扇ぎ始める。

スパフキン 神の力が抜けていくううう！

スパフキン、力尽きて倒れる。

サウナー3人もやりきって倒れる。

スパフキン (地下への階段を示し) さあ、あの先が「ラストサウナ」だ。行くが良い。

西川 真のととのい……。

西川、有馬、地下の階段へ向かう。

有馬 (城崎に) 行かないのか。

城崎 ああ、ちよつと、先に行つてて。

有馬 そうか……、西川さん、西川さん、

西川、有馬、退場。

城崎 一つ、聞きたいことがある。

スパフキン なんだ？

城崎 昔、西川さんと有馬とチームを組んでいたバトルサウナーを知らないか。

スパフキン ピンクのハンドタオルを持っていたサウナーか。

城崎 知っているのか。俺の父親なんだ。

スパフキン ……ああ……、そいつなら死んだよ。

城崎 ……そうか。

スパフキン ……なんと言つたらいいか。

城崎 いや、いいんだ。

スパフキン そいつはお前にとつてどんな父親だったんだ。

城崎 冴えない親父さ。工場勤めで、いつもくたびれた顔をしていた。親父との思い出といえば、この練馬健康センターに連れて来られた事ぐらいさ……もつと遊園地とかに連れて行ってもらいたかったよ。

スパフキン ははは。

城崎 笑えるよなあ……。ある日、親父はサウナに入ったきり、10分待っても3

0分待っても1時間待っても、出て来なかった。心配になった俺はサウナの中へ探しに行ったが、どこにも親父の姿は無い。親父はサウナの中で行方不明になった。

スパフキン ……。

城崎 あいつは幼い俺と母親を捨てたんだ。

スパフキン 恨んでるのか？

城崎 いや、もう、

西川、地下から登場。

西川 みんな聞いて！ ついに見つけたの！

城崎 西川さん、

西川 私にとつての真の「ととのい」、精霊たちが宿った大量のサウナストーンを。えっ

西川 これで私は億万長者。あなたはもう用済みよ。

城崎 何を言ってるんだ？

西川 木枯らし！

西川が持っているタオルを仰ぐと竜巻が発生する。

スパフキン 危ない！

城崎を庇ったスパフキンの背中に命中。

スパフキン ぐあああ！

スパフキン、その場に倒れる。

城崎 スパフキン！

西川 これで練馬健康センターは全て制圧したわ！ これでバトルダンジョンを守るボスサウナーは居なくなった。

城崎 西川さん！ どうしてこんなことするんだ！

西川 練馬健康センターを生まれ変わらせるの。精霊を売りさばいて得た莫大な利益を元手にね、

城崎 改装するってことか

西川 そうよ。イオンモールに。

城崎 イオンモール!?

西川 何でもあるわよ。映画館、飲食店、ボーリング場、バッティングセンター、

地下1000階までありとあらゆる娯楽を極めた複合施設にするのよ。

やめてくれ! 練馬健康センターは…俺にとつて大切な場所なんだ。

西川 健康センターじゃ金にならないのよ! もっと大きなビジネスを始めるの!

有馬、登場。

有馬 それは間違ってるよ! 西川さん!

西川 あら、まだ生きていたの。

有馬 聞いてくれ。俺はサウナマットを交換する西川さんが好きだ。熱波でみんなを「幸せ」にする西川さんが好きなんだ。

西川 私はサウナなんて嫌い! 熱くて苦しいだけよ!

有馬 お客さんの「笑顔」が私の生き甲斐つて自分でも言ってたじゃないか。

西川 昔の自分は今もう捨てたの!

有馬 この分ならずやー!

○じゅぼぼく!

西川 西川に向かって有馬の打たせ湯が飛んでいく。

西川 木枯らし!

○ぶんっ

西川、タオルマットで弾き、打たせ湯の軌道を変える。

城崎を庇うスパフキンに命中。

スパフキン ぎゃああああ!!

城崎 何故俺を庇う! …ちくしょう! やるしかねえのか。

有馬 いくぞ城崎、

城崎 おう、

城崎、有馬、手の形をかめはめ波のように構える。

2人 Wスウェット・スプラッシュ!

西川 大木枯らし!

○じゅぼぼくく!!!

○びゅくく!

西川の大木枯らしと城崎、有馬の打たせ湯が拮抗している。

有馬

お、押し負けてる!

城崎

ち、ちくしよおおお!!!

○爆発音。

西川の大木枯らしが2人に命中。

城崎、有馬倒れる、

西川

さあ、これでお別れよ。有馬……、こがら、

○ブウ……。

有馬、大きめの屁をする。

西川

こが、

○ブウ……。

有馬

やってみろよ。木枯らし、すかさず俺の屁枯らしで無力化してやる!

○銃声

有馬

うっ!

有馬、胸を押さえて倒れる。

組長、登場。

組長

実が出ちまったようだな。

城崎

貴様は!

組長

いくらバトルサウナーとはいえ、生身の人間。

○銃声

城崎

うっ!

組長 悪いな。練馬健康センターはうちの組のお得意様でね。

西川 イオンモールの地下893階はとどのい組の事務所になるの。

組長 俺もラストサウナに連れて行ってくれないか。

西川 いいわよ。

西川・組長 (笑う)

城崎 ちくしょう……。

城崎、倒れる。

●時間が止まる。

スパフキン、ゆっくり立ち上がり、ピンクのハンドタオルを、城崎が被弾した部分に当てて傷を癒す。そして、最後の力を振り絞って、城崎に力を与える。

スパ(声) サウナーよ。目覚めよ。

●時間が元に戻る。

スパフキン倒れる。

城崎 父さん！

立ち上がる城崎、有馬。

西川 なになになにに、

組長 こいつら、不死身か！

組長、城崎を何発か撃つが、銃弾が効かない。弾も切れる。

組長 何故だ？銃弾が効かないだと！？

城崎 バトルサウナー奥義「脂汗」このぬめり気のある汗であらゆる攻撃を受け流し、俺の肌を守る！

組長、懐からナイフを取り出し、城崎の胸を突き刺す。

組長 どうだ！

城崎 効かんと言ってるだろ！

城崎、自分の脇を大きく広げる。

組長　ぐわあああ！　臭いいいい！

組長、その場に倒れる。

城崎　俺に脇を開かせたが、最後。2つのラフレシアがお前の意識を奪う……バ

トルサウナー奥義「脇汗」！

西川　おのれ！　役立たずが！

突如、有馬が西川の背後に現れる。

有馬　西川さん、

西川　ひゃっ

城崎　バトルサウナー奥義「冷や汗」！

有馬　西川さんに伝えたいことがあるんだ。

有馬、西川の両肩を掴む。

○心臓の音

城崎　バトルサウナー奥義「緊張の汗」！

有馬　（耳元で）結婚しよう！

西川　お断りよ！

西川、有馬を突き飛ばす。

有馬　バトルサウナー奥義「塩」！

○プシャー！

有馬、手元から白い粉を飛ばす。

西川　きゃくく……。　

有馬　「塩」！

○プシャー！

西川、倒れる。

城崎、有馬、倒れた西川に添い寝をする。

城崎・有馬 バトルサウナー奥義「寝汗」！

西川 頭がおかしくなりそう。

西川、気絶する。

城崎、有馬立ち上がる。

城崎 バトルサウナー奥義「塩」には受けた相手の欲望を浄化する効果がある。

有馬 そしてバトルサウナー奥義「寝汗」を受けた相手は深い眠りにつき、次に目覚めた時、最初に見た相手のことを好きになるって寸法さ。

城崎、有馬、ハイタッチ。

城崎 何とか倒せたな。

有馬 西川さんが目覚める頃には全て元通りだろう。

スパフキン うっ

有馬 スパフキン！

2人、スパフキンに駆け寄る。

スパフキン ……最後に頼みがある。

城崎 なんだよ。

スパフキン 一緒に「ラストサウナ」へ来てくれないか。

城崎 あるのは、大量のサウナストーンだろ？俺はそんなものには興味が無い。言いたいことがあるなら今、ここで話せ。

有馬 違うんだ、城崎。大量のサウナストーンも確かにあったが、それだけじゃない……。腹割って話して来い。

城崎 ……分かった。

城崎、倒れているスパフキンを背負う。

有馬、西川をお姫様抱っこする。

有馬 俺たちも2人きりにさせてもらおうよ。

城崎 お幸せに。

城崎、スパフキンを背負って地下へ退場。
有馬 西川さん、これからは2人で練馬健康センターを盛り立てて行こう。

○蒸気の音。

●暗転。

第4話「対話」

地下1000階。ラストサウナ。

第1話と同じような普通のサウナ

サウナには城崎とスパフキンがいる。

スパフキン ……真の「とどのい」なんて、本当は無かったんだ。

城崎 薄々気づいていたよ。

スパフキン そうか。

城崎 というか、もうそんなもんはどうだって良いんだ。

スパフキン ……。

城崎 あの日、どうして地下へ向かったの？

スパフキン ……現実から逃げた……。お前は幼かったから、覚えてないだろうけど、当時おとうさんは職を失ってたんだ。あの日、母さんから離婚届けを突きつけられてな。

城崎 ……水掛けていいですか。

スパフキン いいですよ。

○じゅわあ。

スパフキン 無職だったおとうさんは先代サウナの神から、「サウナの神」への転職を勧められた。天職だと思った。神だけに。

○じゅわあ。

スパフキン お前のことも母さんのことも、20年間放置して本当に申し訳ないと思ってる。
いる。

城崎 そりゃさ、思うことはたくさんあるよ……。正直、今でも恨んでる……。のか
もしれない。でも、許すよ。サウナを教えてくれたのは父さんだから、

スパフキン ……すまない。

城崎 俺、思い出したんだ。「ととのい」に憧れる理由。父さん、サウナから出た後はいつも満足そうな顔をしてたじゃん。

スパフキン そうか？

城崎 そうだよ。俺、その笑顔の理由を知りたかったんだ。だから、「ととのい」の道に目覚めた。

スパフキン そうかそうか、

城崎 なんか、恥ずかしいな。

スパフキン ありがとう……。

沈黙。

スパフキン お陰で夢が叶ったよ。

城崎 夢？

スパフキン 親子でサウナに入るのが夢だった。

城崎 そんなこと？

スパフキン ああ、

城崎 確かに、2人でサウナに入るのは、初めてだね。

スパフキン ああの頃のお前はこんなにちっちゃかったからな。

城崎 そんなに小さく無いよ……。俺さ、もう子供じゃないんだ。もう会社に就職して社会人として働いてるんだよ。それに……。恋人だっている。……。結婚したいと思ってる。結婚して子供が出来たら、俺、ちゃんと父親になれるのかな。

スパフキン、いつの間にかサウナから去っている。

ピンクのハンドタオルが残されている。

城崎 明日も仕事か。

城崎、ピンクのハンドタオルを見つけて、肩に掛ける。